

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—「の」と「ね」を上手に—

NO. 38



カウンセラーさんのように、話を聴く仕事をしている人の大きな武器の一つ、それは“うなずき”だそうです。話し手のリズムに合わせて大きくうなずいたり、小刻みにうなずいたり、「う～ん」と納得するようにうなずいたり、もっと話したくなる“打ち出の小槌”みたいですね。専門家ではなくても聴き上手の方っていますよね。話していて、「聴いてくれている」と感じるとそれだけで気持ちよくなるものです。解決策が見つからなくても、話を聴いてもらうだけで元気になれることってたくさんあります。お互いがそうありたいものですが、余裕がないと、そうもいきません。でも、それがスッタモンダの日常だと思います。時々できればいいんですよね。

さて、子どもと向き合う際も、聴き上手でありたいものです。まっすぐ伝えてこないこともあるし、どう伝えてよいのか、子ども自身がわからないこともあります。1のことを10にして受け止めてくれれば子どももラクになるし、「もっと伝えたい」って気持ちにもなります。言葉を育てていくことにつながります。ちょっとひと工夫なのですが、参考にしてみてください。

子どものメッセージを受け止めるときに、伝えたいことを代弁したり、こちらがもう一度繰り返して話したりすることがあると思います。「やりたかったの～」「こまっちゃったね～」「〇〇だったんだね～」「ごはん食べ終わったらまたやろうね～」と、たった今、そんな声をかけたのではないのでしょうか。この「の」と「ね」って、とても心地よい響きなんですよ。言葉をかけた後に、ちょっと背中を抱かれるような柔らかさが残ります。子どもに対するその場の振る舞いもゆっくりになって、思わずその子を見つめてしまいます。「僕の気持ちを受け取ってくれた」という雰囲気を感じ伝えることができるのではないのでしょうか。

「の～」「ね～」のように語尾を伸ばすのも、言葉を柔らかくするポイントのひとつです。子ども自身が上手いかわからないときって、何か流れが止まってしまって、大人も「早く！」って言いたくなる時かもしれません。「やっちゃったの！」と早口で語尾を上げると「あ～あ」といった感じで伝わってしまいます。子どもは意気消沈。大人もため息交じりになってしまいます（それでも、いつのまにか、笑顔になるのが家族です。）「の～」「ね～」の語尾伸ばしは、“じゃあ、こうしよう”と次の一手が出しやすい余韻があり、大人もスピードを落として落ち着ききっかけになります。

「そんな簡単にはいかないでしょ」と思われるかもしれませんが、きっとその通りだと思います。でも、ちょっと試してみてください。もう一回、声をかけたくなるかもしれません。

たとえ、話しかけている言葉が子どもに分からなくても、かける言葉のニュアンスや雰囲気は、しっかり子どもに伝わります。人と人とのコミュニケーションは、言葉以外のメッセージから始まります。子ども達もいろいろな体験を重ねていて、小さな心でいろいろなことを考えています。話を聴いてくれる、受け止めてくれる安堵感は、子どもだって、それだけで元気の源になります。その元気は“もう一歩先”へ進もうとするパワーになります。



“聴く”って積極的な関わりには見えませんが、大きな力を生み出すんですよ。（R1. 7）K